

第59回

全国学童保育 研究集会in岡山

～つなぐれあっ晴れ！学童保育～



全国研広報チームニュース No.9 2024.12.27発行
第59回全国研最終号！

第60回全国研は福岡県での開催です！

♡福岡へ♡きんしゃい!!
まっとるばーい

来年！第60回全国研は福岡にて!!
2025年10月25日(土)・26日(日)
全体会:福岡国際センター
分科会:福岡大学



「ただいま～」「おかえり～」からはじまる放課後のおうち！
学童保育。子ども一人ひとりいろいろな思いの「ただいま～」を受けとめ、一人ひとりが「私が私らしくあっていい場」であるために、学童保育に子どもを託し、一生懸命子育てをしている保護者の方々、そして学童保育で働くすべての指導員の方々、ここに集い、「子どもを真ん中に、いろいろな語りあいをしませんか？

第59回全国研 たくさんの方の参加がありました！

全国から 4829名

参加申し込みに向けて、地域での活発なお声掛け
にご協力いただきありがとうございました！



岡山からのメッセージ & 感想が届きました！

岡山県より

★第59回全国学童保育研究集会をふり返って

橋口育子 岡山県学童保育連絡協議会・事務局次長



第59回全国学童保育研究集会が無事、閉会しました。岡山にお越しくださった皆様、ありがとうございました。

当日は、岡山の学童保育に通う子どもたちによる歓迎行事でお迎えしました。この日を楽しみに、当日の朝、直前まで練習に励み、細かなタイミングを合わせて本番に挑みました！ワクワクドキドキの“全国デビュー”の瞬間!! 会場で参加された皆さんからは、歓声や驚きの声、すべての子どもに惜しみない拍手をいただき、ありがとうございました。ステージが終わった後の自信に満ちた子どもたちの表情は、指導員も涙があふれてくるほどのものでした。

2023年の第58回全国研は、会場に集うことに一步を踏み出した集会でした。第59回全国研は岡山県連協として「会場を岡山に！」と覚悟を決めたものの、県内各地に協力体制を広げていくのはそこから……。

開催地に手を挙げてからの1年半は、長いようで短いものでした。準備の段階から、全国各地から岡山に集っていただくためにあらゆる可能性を探って実行に移したり、取り組みをどう進めるか計画を立てて分担したり、リモート化が進んだからこそできる負担感の少ないやり方を取り入れたりすることなどを通じて、協力しやすい体制を考慮したなかで、役割分担を行いました。

さまざまな準備を進めていくなかで、他の役割を担うグループと連携し、それぞれが主体的に動いてきたことが、当日のスムーズな運営につながったと思いますし、そのことが形になって見えてきたときに、「県内がチームだ！」と感じられました。もちろん、岡山のスタッフが会場運営の仕事に注力できたのは、全国各地の学童保育連絡協議会の皆さんとの役割分担ができていたからだと思います。

43の分科会の準備は、地域連協の方々力なくしては整いませんでした。全国研への参加を呼びかけた各地の皆様、講師の先生方、分科会の世話人を担った方々、レポーターの方々、そしてオンラインで開催された分科会の運営を担われた方々に、心より感謝申し上げます。2023年に引き続き、2024年も“全国研の復活の狼煙”を、「温羅（うら）伝説が伝わる吉備国」からも上げられたことをうれしく思っています。行きとどかなかった部分もあったと思いますが、貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

今後も、全国各地が1つのチームとして動いていく「全国学童保育研究集会」がつづいていくことを願っています。そして、このバトンを福岡につなげられるよう、これからも協力・応援させていただきます。



岡山県より

★第59回全国研in岡山を終えて

橋本麻子 津山北小ひなづる児童クラブ・指導員

全国学童保育研究集会、お疲れ様でした。岡山にお越しくくださった皆様、オンラインを通じて参加してくださった皆様、ありがとうございました。

1日目、私は交流会の運営のお手伝いをしていました。岡山のメンバーとの間では、「開催時間も短く、飲食の提供はないので参加者は少ないのでは……」と話していましたが、蓋を開けてみると予想以上に多くの方が集まり、その熱気に圧倒される思いでした。オンラインは参加しやすく、さまざまな利点もありますが、私自身、これまで、「ちゃんと聞こえているだろうか?」「うまく話せているだろうか?」と話している最中に不安を感じたことがありました。

交流会に参加された方々の様子から、たくさんの方が「現地で直接会って話したい」と思われていることをあらためて感じました。また、歓迎行事でのステージを終えた後の子どもたちの誇らしい表情に、「岡山で開催できてよかった」としみじみ思いました。

★集会後に味わう全国研の醍醐味

池川尚美 宮城県・保護者OB

宮城県より



今回、私は会場参加でしたが、分科会の世話人を務めた関係で、2日目は会場につききりの状態。白熱した分科会から解放され、表に出たのは参加者の方々が退出した後で、2日間を終えた参加者が醸し出す全国研特有の“高揚感”を味わうことができませんでした。

でも、全国研の醍醐味は、当日だけではありません。集会後に味わう余韻、明日につながる新たな関係もまた格別です。

全国研の翌日。倉敷を巡っていると、「やっぱり来てたのね!」と、何度も声をかけられました。全国研参加者の皆さんです。オンラインで顔だけは知っていた方、今回初めて知りあった方、みんな旧知の仲のように声をかけてくださいました。「『大原美術館』は休館よ!」と教えてくれたり、写真を撮る手伝いをしたり。たった2日間、同じ研究集会に参加したことで、「仲間」になっていました。

地元に戻ってからは、会場での名刺交換が、新たな関係を広げています。分科会での発言者と休憩時間にさらに掘り下げた話をしたことを機に、事後に地元の情報を送ったところ、「地域で情報共有します」と返信がありました。また、「話を聴かせてほしい」とあらためて連絡をくださった方も。

「全国研は当日だけではない」を、実感しています。

石川県より

★まさに納得! 子どもたちの様子を思い浮かべて……

高森裕子 石川県・保護者OB

記念講演・川地亜弥子先生のお話は、身振りあり、手振りあり、大変わかりやすく、ときに「くすっ」と笑うところもあったりして、あっという間に時間が過ぎていきました。

とくに、講演のなかで紹介された「ドッチボールであそんだ」という作文や、ケンカのことを書いた「ぼくがまちがっていたのかな?」という作文。子どもの気持ちがとてもよく伝わってきましたし、わが子の通う学童保育の指導員さんたちが、いつも子どもたちを見守ってくれている様子と重なって、興味深く聞くことができました。



川地先生が、「子どもたちが遊んでいるなかでケンカになり、どう折りあいをつけていくかには時間がかかるけれど、学童保育では子どもの『納得感』を大事にしているのではないのでしょうか」と話されていて、これぞまさに納得！ でした。

2日目の分科会は、「つながる“わ”保護者会・父母会の役割と活動」に参加しました。活発に活動されている保護者からのレポート報告の後に、悩みをかかえていらっしゃる参加者の方が、自分の学童保育での課題を解決するために、あれこれ質問をするという流れでした。その後、交流もありました。

参加するなかで私が感じたのは、「運営主体によって、悩みも課題もさまざまであり、地域によって改善の方法や考え方も異なるのだなあ」ということでした。全国各地の学童保育の様子があまりに異なっていることにおどろきました。

宮崎県より

★参加者と共に、大切なことを学びあいました

柏木いづみ 宮崎県学童保育連絡協議会

1日目、全体会の会場に入ると、活気あふれる場内の雰囲気圧倒され、「全国各地にこんなに大勢の学童保育を支えている方々がいるのだ」と心強く感じました。

全体会での川地亜弥子先生の記念講演は、現場にフィットした臨場感のあるお話で、遊びのなかで子どもたちが育ちあっていく様子や、見守る指導員の資質、求められることをわかりやすく学ぶことができました。

2日目、私はオンラインで開催される第20分科会「性について考える」の世話人をさせていただきました。大阪に配信ホストともう一人の世話人の方がいらして、私は分科会講師・宇野香織先生の岡山のご自宅にお邪魔させていただくという状況での参加となりました。

結果、私は特等席で宇野先生のお話を拝聴し、講義後も先生と直接お話しさせていただけるという“特典”を得ることになりました。世話人として、しっかりアシストできていたかは疑問符がつきますが、分科会は配信上のトラブルなどもなく、スムーズに進行することができました。

分科会のテーマ「性について考える」は、学童保育において必ず出会うセンシティブな課題です。宇野先生はそれを、とてもわかりやすく包み隠さず解説してくださり、参加者の皆さんにも満足いただける分科会になったと感じました。

★第3分科会②

「市区町村の連絡協議会づくりと活性化」に参加して

曾田和徳 兵庫県学童保育連絡協議会

この分科会では、よりよい学童保育をつくっていくうえで重要な役割を担う市区町村の連絡協議会の「活性化」について話しあいました。

はじめに、三重県・東京都からレポート報告がありました。つづいて行われた参加者間での交流では、連協からの脱退や役員の引き継ぎなどの課題がありつつも、「連協内の交流や対話を大事にしながら、連協活動の意義をどう継承していくかに努力している」といった趣旨の発言が多かったように思います。

私自身、分科会全体を通じて、「連協の活動を活性化させる特効薬は、なかなかないが、日常的に連協が各学童保育所・保護者会と連携を図り、個々の要求を地道に拾いあげていくことが大事だ」と感じました。今後、私の地元の兵庫でも、学童保育連絡協議会を活性化していくために、県内で交流を図り、活動を工夫していけたらと思っています。

兵庫県より



三多摩連協の みなさんより

全体会

○歓迎行事

*圧巻でした。あれだけの人数で動きや歌をあわせるだけでも大変だったと思います。いま、学校の授業が長くて帰りが遅く、なかなか時間も取れないなかで、練習の時間を確保できただけでも素晴らしいと思います。自分の勤務する学童保育ではとてもできないと思いました。

*パワフルな歓迎行事、実際に会場で見ることができてよかった。
*大勢の子どもがすごいパフォーマンスを披露してくれて、感動しました。いままでの自分自身のさまざまな苦勞が吹き飛びました。

*やはり全国研はこうでなくっちゃ！



○基調報告

*発声もしっかりしていたし、話し方もよかったですと思います。会長・戸塚さんらしさが出てきましたね。最後にペンを拾うためにしゃがまなければ満点でした（笑）

*時間が（進行が）押していて、サラッと内容を紹介した感じではあったが、討議資料に掲載された基調報告は重要なことがコンパクトにまとめられていて、とてもよい内容だった。自分の地域に帰ってから皆に伝えたいと思いました。

○記念講演

*学童保育で共に育ちあう子どもたち全体に向けた視点で、「子ども理解」について話してくださって、とても聞きやすかったです。子どもの土台となる「あそび」の大切さがここでも語られました。あそびは「子どもの権利」の土台となることを私も発信していきたいです。

*子どもの視点、保護者の視点、指導員の視点が織り交ぜられた講演で、とてもわかりやすく、興味深いものでした。毎年、「全国研・記念講演」は質が高く、聞きごたえがあり、感謝しています。

*すばらしかった。

分科会

○第2分科会③「学童保育の生活とあそび」に参加して

全国研の第2分科会にはじめて参加して、「私たちは一人ではない」とさまざまな場面で実感し、感動しました。

指導員はチームで働くものだし、中心には子どもと保護者が常にいますが、指導員自身の視点が行動に現れる仕事なので、自分と向きあうなかではときに“孤独”を感じ、「この時間が永遠につづくのでは……」と思うことがあります。

今回、私が参加した分科会のテーマは「学童保育の生活とあそび」。参加者の9割が初参加で、保護者の方も2名参加されていました。ミニ講座もレポートも、「あそびは『いまを楽しむもの』」ということをおさえつつ、あそびが子どもにもたらすもの、学童保育実践との関わりなどにもふれられた内容で、興味深かったです。

一方、学童保育での「遊び方」（方法論）を聞きたいという声が多かったことにもおどろきました。正直、私は「指導員があそびを通じて学童保育で実践を積み重ね、子どもとともに生活をどのように豊かにしていくか」といった話を深めたかったと思っています。

それでも、グループワークで一緒になった参加者の方のお話を聞き、ハッとさせられました。子どもと関わるなかで、自らの課題に気付き、学びを深めるために全国研に参加されたとのこと。指導員が、学童保育関係者が、全国研に参加する人々が少なからず近い感覚を持っているように思います。

そしてそれは、保育のみならず、「つくり運動」でも問われていることです。「自らの思いを言葉にし、耳をかたむけてもらい、参加者の“いま”を聞くことがこんなに心強いものか。歩みつつづけているのは自分だけではない。自分も含めてすごいじゃないか」と実感する場が全国研なのだと思えました。

そして私たちは、それぞれの自分の場に戻って歩いていきます。参加する前よりも豊かになった目線だから場がより色づいて見える。直接顔をあわせての交流がいいってこういうことなのかもしれないですね。意見や考えや悩みもそれぞれでしたが、最後にみんなで遊んで笑顔で分科会を終えました。ああ～うれしかった♪

○第2分科会⑧「子ども理解と心のケア」に参加して

助言者の池田美樹先生より、自然災害や緊急時といった非日常における子どものストレス反応に対する心のケア、心理的応急処置（PFA）という心のサポートの視点から、お話しいただきました。「大切なのは、つなぐことであること。日常のちょっとした『いつも』の顔の見える関係性をつくることは、「いつも」ではない状況を理解するうえでとても重要」というお話が心に残りました。

地域・保護者・学校……つなぐことは大切だけれど、どこの地域も悩んでいる課題でした。

○第25分科会「働きながらの子育てと家族・家庭」に参加して

講師の先生の生のお話が聞けることや参加者の意見のやりとりなどは、オンラインではできなかったらと感ずきます。会場が広く、参加者同士の交流はできなかったのですが、参加された皆さんの真剣さと切実さが伝わり、なかなか聞きごたえがありました。

若い方や初めて全国研に参加される方も多く、「全国学童保育研究集会はやはり必要とされているのだ」と再認識しました。勉強も同じですが、リアルで聞いて考えて発言することが、私たちの人生をより豊かにするのではないかとあらためて思います。



福岡
FUKUOKA

次回へのメッセージ

- *初めての九州開催とのこと。期待しております！！
- *いまから福岡に行くことが楽しみです。ぜひ、現地に行って、「たくさんの方々とつながって活動しているのだ」ということを確認して、学びを深めていきたいです。よろしくお願いいたします。
- *来年、福岡に行けることを楽しみにしております。
- *がんばってください！

★第16分科会「子どもの権利を学ぶ」に参加して

池田正子 兵庫県学童保育連絡協議会

兵庫県より

オンラインで開催された第16分科会「子どもの権利を学ぶ」。「ふみちゃん先生」こと、講師の齋藤史夫先生ワールドを十分に味わい、「子どもの権利」を考え、交流する一日でした。200人を超える参加者はそれぞれの場所で、齋藤先生は東京の『渋谷スクランブルスクエア』の15階『QWS（キューズ）』という施設からの参加。好天の都内の見晴らしも中継して下さって、オンラインならではの展開にワクワク。

講義は、ビジュアルを活用して、どろんこになって遊びきる「森の保育」の紹介、「ふみちゃんの算数教室」と皆、心をわしづかみにされました。ていねいな討議資料と事前配布資料は、本分科会の核心をご教示いただいたように感じられ、心地よく読めました。電源なしでくり返し味わえる「紙」の資料の良さだと思います。

グループワークは少人数で、時間もあまり気かけずに話すことができ、「放課後等デイサービス」と学童保育の現場交流の機会ともなりました。初対面で話し込めるような環境を設定して下さった運営を担った方々に感謝します。

「オンラインだから全国研に参加できた」という、30年近い経歴を持つ方との出会いもありました。「画面越しもまたよし♪」とも思いました。



佐賀県より

★ 全国各地の仲間と再会し、

学童保育のよさをたしかめあって

田中雅美 佐賀県

2019年に第54回全国研in京都に参加して以来の会場参加となりました。

「おーー!! お久しぶりです」「わーー!! やっと会えたね」

全国の仲間と直接会い、学び、語らう2日間。会場に入ると胸が高鳴る。そうそう、これだ！全国研だ!!

全体会ではまず、なんとといっても「歓迎行事」。岡山の学童保育に通う子どもたちの舞台は圧巻でした。学童保育ならではの遊びや、キレッキレの踊り。とくに『うらじゃ』が印象に残りました。みな、すばらしかったです。



全国連協役員による『日本の学童ほいく』を読み・広げようという呼びかけの名演技。頭が下がります。

記念講演では、川地亜弥子先生のお話になる声がとても心地よく、講演内容はユーモアもあり、あっという間の時間だった。子ども時代の「遊び」が人生の土台をつくる。学童保育そのものではないでしょうか。遊びと生活の場である学童保育は、その役割を担う場所。そして子ども・保護者と共に生活をつくる指導員。なんて素敵な仕事なのだろう。

自分たちの小さなコミュニティのみならず、全国各地の様子を知り、感じ、吸収し、そして実践につなげていくことの大切さを、全国研は教えてくれる。

★はじめて！ 全国研に参加しました

小関幸江 全国学童保育連絡協議会・職員

私は今回、はじめて全国研に参加しました。準備の段階から、岡山の皆さんの熱意とパワーに圧倒されて迎えた初日の全体会。川地亜弥子先生の記念講演では、先生の興味深いお話とともに、参加者の皆さんの真剣な表情が印象的で、私も気が引き締まりました。大勢が集った様子に、「これが全国研か！」という気持ちにあらためてなりました。

そして翌日、早朝にホテルから分科会会場に向かっていくと、「おはようございます」との声。参加者の方が声をかけてくださったのです。私も元気に「おはようございます！」と挨拶し、分科会会場の川崎医療福祉大学へ到着！ 分科会が始まると、ここでも皆さんの真剣な表情とまなざしに出会うことができました。

私も分科会に参加すると、日頃、学童保育現場で試行錯誤されている指導員さんたちの思いや悩みが交流されていて、「私が小学生の頃に通っていた学童保育の指導員さんも、同じようにさまざまな思いを抱えて私たちと関わってくれていたのだろうか」と思いました。

さまざまなことにつれ、学ぶことができた二日間。岡山の皆さん、全国各地の皆さん、ありがとうございました。お疲れ様でした。



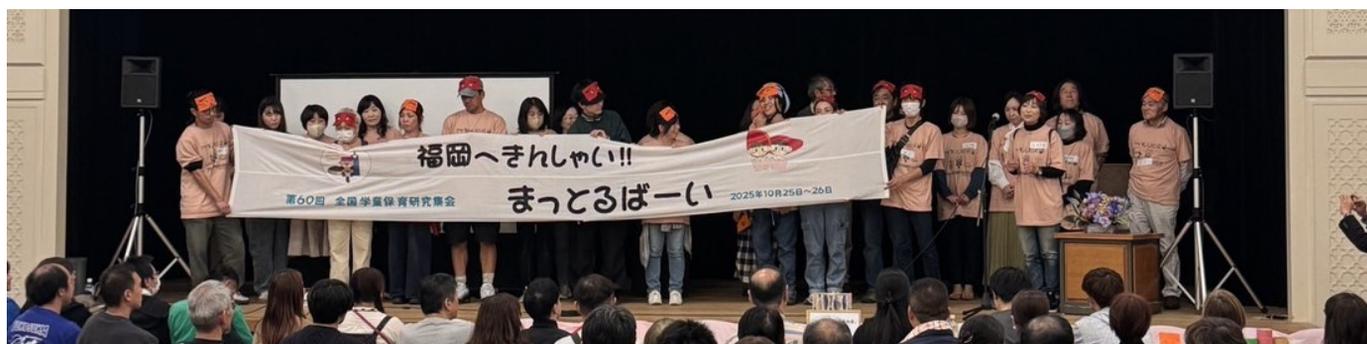
月刊『日本の学童ほいく』2025年2月号は全国研特集！



月刊『日本の学童ほいく』 2025年2月号
(発売:2025年1月15日)

特集 第59回全国学童保育研究集会in岡山
一つながれ あっ晴れ！学童保育
第59回全国研2日間の模様を、全体会のダイジェスト、参加者の感想、分科会報告などからふり返ります。
◎内容：記念講演／特別報告／分科会報告／参加者の感想 ほか

「来年秋、第60回全国学童保育研究集会でお会いしましょう！」



第60回全国研開催日は

2025年 10月25日(土)
10月26日(日)

開催地は、**福岡県**です。

ぜひ、ご予約ください。

*詳細は月刊『日本の学童ほいく』でお知らせします。



全国研広報チームより

「つながれあっ晴れ！学童保育」広報チームニュースNo.9まで発行できました。
最後まで読んでいただき、ありがとうございました。



第59回全国研特設ページ



●第59回全国学童保育研究集会についてのお問い合わせ先【集会事務局】
TEL : 03-3813-0477 (10時~17時。土日祝日休業)
Email d59zkk@xrh.biglobe.ne.jp
HP <http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou/zenkokuken/d59/>